

## 令和4年度教育研究活動報告書

氏名	堀江進也	所属	経済情報学部経済情報学科
学位	Ph.D.	職位	准教授
専門分野	応用ミクロ経済学		

I 教育活動	
本年度担当科目	
	授業科目
学部	入門経済学(ミクロ)、ミクロ経済学1、ミクロ経済学2、経済経営情報実習、 専門演習1a、専門演習1b、専門演習2a、専門演習2b、基礎演習1
大学院	ミクロ経済学特論
II 研究活動	
現在の研究テーマ(3つまで)	
(1) 生産関数の集計化	
(2) サプライチェーンを通じた災害による経済への影響	
(3) 災害リスクと居住地移転	
本年度を含む過去3年間の研究業績 R4・R3・R2	
R3	〈学会発表〉「異質資本を含む経済の集計」、共著、2022年10月、日本経済学会2021年度秋季大会(査読あり) 〈学会発表〉“Uzawa, Solow and Aggregation”, 共著、2022年6月、日本経済学会2022年度春季大会(査読あり)
R3	〈学会発表〉「集計経済の構築-集計TFPと物価-」、共著、2021年6月、日本経済学会2021年度春季大会(査読あり) 〈学会発表〉「経済の集計-多数企業から複数産業そしてマクロ経済へ-」、共著、2021年10月、日本経済学会2021年度秋季大会(査読あり)
R3	〈学会発表〉「サプライチェーン経済の構築」、共著、2021年10月9日、日本経済学会2021年度秋季大会(査読あり) 〈論文〉“Construction of an Aggregated Economy - Aggregated TFP and Price Level -”, 共著、2021年8月、 Kwanse Gakuin Discussion Paper Series, No.228.
R2	〈学会発表〉「経済的手法を用いたCOVID-19 ウイルスの 国内感染拡大抑制政策の必要性」、共著、2020年11月、 日本応用経済学会2020年度秋季大会(企画セッション)
H30以前の主な研究業績	
(1) 〈論文〉「地震による直接被害額のリアルタイム推計-新モデルの開発と応用-」、共著、地域安全学会論文集、2019年5月、Vol.36, pp.1-10.	
(2) 〈論文〉「地場産品のブランド名変更が消費者の購入行動に与える効果」、共著、国民経済雑誌、2018年9月、Vol.220, No.5, pp.49-61.	
(3) 〈論文〉“Procurement Auction with the Probability of Corruption”, 共著、国民経済雑誌、2018年5月、Vol.217, No.5, pp.73-85.	
(4) 〈論文〉「大災害からの生活水準の回復」、共著、国民経済雑誌、2017年9月、Vol.216, No.4, pp.1-14.	
(5) 〈論文〉“Why Do People Stay in or Leave Fukushima?”, 共著、Journal of Regional Science, 2017年12月、Vol.57, pp.840-857.	
(6) 〈論文〉“The effect of attachment and information seeking on the displaced disaster victims' decision making”, 共著、 Jplos One, 2016年6月、Vol.11, No.3, e0151928.	
(7) 〈論文〉“A real options approach to environmental R&D project evaluation”, 共著、 Environmental Economics and Policy Studies, 2016年12月、Vol.18, No.3, pp.359-394.	
学会、所属団体における活動 (本年度を含む過去3年間の研究業績) R1・R2・R3	
所属学会・所属団体 役職等と任期	
日本経済学会、日本応用経済学会、環境経済政策学会	